

# くまごさ



## 百周年の資金を築こう

### 楽しめる総会を願いつつ



湖陵同窓会会長 栗林 延次

昨年の総会で久本会長の後を引き受けて会長に就任いたしました。前会長より、次はお前が会長をやれと突然お話でありまして、

今日いまだに、右も左も分からずにおります。私とてもその分ではありませんが、同窓会会員の皆様と特に幹事の方々にこれから、いろいろご協力、ご指導いただいて、何とか務めたいと存じております。

初めに同窓会の役目は同窓会員の親睦をはかることは勿論、現高校と現役学生の良き応援団として先輩として何か出来ないかを考えて行かねばなりません。そのためには学校とも日ごろ連絡を密にとり各部活動など学校の状況を把握して、連携して行きたいと思っております。後輩の皆さんの分野での活動は先輩としても喜びとするものであり、楽しみとするもので、我々で出来ることは何かしたいという熱い気持ちは同窓生皆

同じであると拝察いたします。是非とも後輩諸君の文武両道の健闘を願う次第であります。

特に我が湖陵高校は百周年記念事業がもう九年後に予定されております。伝統ある湖陵高校百周年を称える為にも、その心の準備は勿論ですが、ある程度資金的基礎を築いて行かなければならないと思う次第であります。

東京、札幌初め各同窓会とも連絡を取り8月の総会には皆さんが楽しみにご参加いただけるようにしたいと願う次第であります。また今年も幹事期の皆様にはご苦勞をかけますが、宜しく願います。

最後になりましたが、今回同窓会役員も新しく変わりました。全員なれない者ばかりでありますので、よろしくご指導賜りますようお願いも申しあげて挨拶いたします。

昨年8月の同窓会総会の折りに関口前幹事長の後を受けて幹事長としてご承認を頂きました島本ですが、就任の挨拶文を頼まれてから半年近く経過をしている16年1月に原稿を書いている事に、今更ながら自分自身のだら幹ぶり、好い加減ぶりに飽きれかえっております。

とは申せ新幹事長として長年の懸案事項でありました、同窓会館建設資金問題も関係各位の御理解の元無事に解決を致しました事は、全てにおいて感謝であります。

栗林新会長の方針にのっとり先ずは、皆の考えが反映される同窓会、楽しい幹事会を機軸に昨年の11月に各期の幹事さんにもお集まりいただき新役員団の考え方もご説明させていただきます。

同窓会の開催時期の事やら、新入学生の同窓会費の徴収の仕方とか細部の事は、現状と変更を生じる事になると思われれます。今、同

## 新役員団による変更 通常会計から積み立て方針

湖陵同窓会幹事長 島本 幸一



窓会が念頭に置いている事は、九年後に百周年と言う大きな節目を迎える事の段取りを今から少しづつ始める事でありませう。その時になって皆さんに多大な負担を掛けることなく基金として一千万円を目標に毎年通常会計から積み立てを考えておりますし、同窓会館の保全管理に關しても僅かずつでも資金を積み立てて行く方針であります。

ここ数年前から言われている事として少子化問題がありませうが、この事に端を発し高校受験のあり方も様変わりする訳ですから、母校に対する愛着心やら思い入れ等も私たちの年代に比べるとクールになるとするならば、当然、同窓会のあり方も変わらざるを得ないのかなと考えます。とは言えあまり先の事を考えずともどうにもなりませんので先ずは楽しい同窓会を目指して努力します。ですので宜しく願います。

す。とは言えあまり先の事を考えずともどうにもなりませんので先ずは楽しい同窓会を目指して努力します。ですので宜しく願います。



# 新役員でスタート

## 会長に 栗林 延次 氏

### 平成15年度同窓会総会

#### 債務問題は解決

平成15年度釧中・釧路湖陵同窓会総会・懇親会が8月10日に釧路キャッスルホテルで開かれ、同窓生約400人が出席し、旧交を温めました。

総会では「日出づる国の・・・」と校歌を合唱、出席した同窓生の心が一つになりました。黙祷に続いて久本甫会長は、懸案だった同

窓会館建設の債務問題が一応の解決をみた報告も含めてあいさつがあり、その後、ご来賓を代表して

釧路湖陵高校の野村秀明校長と釧路市の折原勝副市長からご祝辞をいただきました。

議事進行は、湖陵2期の長内宏さんが議長を務め、平成14年度事業、決算報告などが承認されました。続いて、役員の変更が行われ、栗林延次さんが会長に選出されました。



#### 手品に「へえー」

懇親会では、当番期を代表して21期の曾宇恭久さんがあいさつしたあと、総会・懇親会開催の益金の一部を湖陵高校後援会の中村圭佐会長に手渡し、次に全国高校総体に初出場した湖陵高校サッカー部からお礼

の言葉がありました。

東京支部の板本登会長の乾杯で宴が始まりました。アトラクションの目玉はなんとといってもマジックショー。当番期である31期からプロマジシャン・沢しんやこと田沢伸哉さんが登場、数々の妙技を披露しました。テーブルのすぐ側でもマジックを繰り広げましたが、タネがまったくわからず、見ている同窓生は「へえー」を連発していました。



沢しんやさんのマジック

#### 初めて写真部の参加

一方、現役の生徒たちからは、合唱部と器楽部が出演し、先輩たちを目の前に緊張気味でしたが、日頃の練習の成果をきっちり披露し、大きな拍手を浴びていました。また、今年は初めて、写真部が「今の湖陵」や同窓会館などを写した写真を展示しました。同窓



現役生徒の合唱



湖陵11期生の記念撮影？

生は自分たちの学生時代と比べて目を細めて熱心に見ていました。楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、当番期31期の山崎正明さんが謝辞を、続いて次年幹事期を代表して22期の佐々木敦さんがあいさつをして閉会しました。

(星 匠)



# 「百年に向け準備」

## 合同幹事会開催

### 3百万円を基金に

昨年11月4日、アクア・ベールに各期の代表が集まり、合同幹事会が開かれました。栗林延次会長からあいさつがあり、続いて、新役員の基本方針について、島本幸一幹事長から説明がありました。

一つ目が、平成25年に釧路湖陵高校は開校百周年を迎えることから、その準備として、同窓会の一



合同幹事会乾杯 (15年11月4日)

般会計繰越金から3百万円を基金として積み立てること。さらに関連して、これより毎年百万円程度を基金として積み立て、最終的には1千万円を目標とすることとします。

二つ目が、これまで同窓会費として新入学生徒から千円を徴収していましたが、卒業後の会費がなかなか集まらないことから、3千円とします。

三つ目が、債務問題が決着し、これから有効活用が求められます。同窓会館の保全費として30万円を別会計として積み立てることにします。

四つ目が、今後の同窓会総会・懇親会です。日程はこれまで、8月第2日曜日午後3時からと固定されていましたが、できるだけ参加しやすくするため、第2土曜日に変更する予定です。開会時間については、夜の時間帯を希望する声もありましたが、今後さらに詰めていくことになりました。また、同窓会の会券の見直しも要望されていましたが、従来通り2千円と



## 学校との接点を

湖陵31期から去る8月10日に開かれました同窓会総会・懇親会の中間決算や課題、申し送り事項について説明がありました。

決算関係では、収入予定額はギリギリながらクリアし、支出は概ね予算通りに執行しました。収入では、会券販売目標が千枚に対して千七十一枚、広告収入も目標の百五十万円を達成しました。支出では、事務費や幹事会の経費を削減したほか、お土産や抽選会などを廃止し、また、サッカー部が高校総体出場のため、10万円も事前

に支出しました。申し送り事項では、「学校と接点を増やしていく」との基本方針のもと、従来の器楽部、合唱部に加え、写真部が新たに加わりました。写真部については、9年後の百周年のこともあり、今後も継続

して取り組んでほしいとのことですが、そのほか、前日に実施した学校見学会や会



券収入の振込化などについても成果がありました。

「懇親会の運営を極力簡素化」と「学校との接点を増やして愛校精神を高めること」を掲げて総会・懇親会に臨んだ21、31、41期でしたが、その目標が達成でき、しかも、和気あいあいとした楽しい運営でした。新役員も決まり、伝統を大切にしながらながら、今後新しい同窓会に育っていくでしょう。(星匠)

### 「新役員紹介」

- 会長 栗林延次 (湖陵17期)
  - 副会長 濁沼英一 (同18期)
  - 同 曾宇恭久 (同20期)
  - 同 青木一晃 (同27期)
  - 同 島本幸一 (同19期)
  - 幹事長 佐藤文昭 (同22期)
  - 副幹事長 中村圭佐 (同25期)
  - 会計監査 鈴木豊治 (同16期)
  - 同 近藤康範 (同19期)
  - 同 永田敦子 (同24期)
- \*\*\*\*\*
- 湖陵同窓会東京支部
  - 会長 板本 登 (同16期)
  - 札幌湖陵会
  - 会長 花田孝磨 (同17期)
  - 帯広湖陵会
  - 会長 河崎 弘 (同1期)



# 誠愛勇から

湖陵4期・二七会の巻

## 私の歩んだ五十年

札幌会会長 村山 幹夫

戦後間もない昭和21年4月、旧制中学校・女学校最後の1年生として入学したのが、私達の出会いの初めでした。

新旧学校制度の転換期という混乱した時代でしたが、受験に追われることもなく、中学と高校の6年間を共に伸び伸びと過ごすことができましたが、貧しくひもじい思いもしました。

そして、昭和27年3月、数々の思い出を後に、未知の社会へと巣立っていききました。それから半世紀、50年の歳月が

# 釧中最後に入學し、男女共学

この期は特別な生まれである。昭和8年生まれ。当今(現・天皇)明仁皇太子ご誕生と共にし、混乱の世を経て踐祚をも迎えた。

「幻の釧中35回生」併置中2回生・湖陵高4回生(昭和21年〜昭和27年)として「釧中物語」の最後の期に登場。釧高女は29期生。その3年目、当「くまざさ」を遠藤隆吉幹事長として発刊している。彼の依頼で「青春譜・湖陵ヶ丘」さらに「誠愛勇から」と連載し続けて今に至る。

敗戦の翌21年に釧中入学し学制改革で4年間も下級生の入学しない最下級に甘んじ、可愛がられた? 男女共学でようやく下級生が入ってきたが新教育の下級生に釧中の權威も通じず、移ってきた女生徒にも威張られる。

湖陵高を昭和27年に卒業し「二七会」と称し七十歳の古希を迎え、その札幌会(村山幹夫会長)が「卒業50年節目記念文集」私の歩んだ五十年」を発刊した。遠藤隆吉労働事務センター所長(二七会会長)から寄贈を迎え、ここに特集する。

流れました。2つの世紀を跨いで、流転の時代を生き抜いたかつての美少年・美少女達は、人生七十古来稀なる年代となりました。

戦後日本の高度成長期の繁栄を支えた戦士であった私達の多くは、すでに「働く現役」から「ひまな現役」にリタイアして、善良な一市民として平穏な老後を過ごしています。

## 〈卒業50年節目記念〉

「顧みれば、昭和1桁生まれの我々同期生は、小学校低学年時に太平洋戦争が始まり、開戦初頭の

女性が夫の死をあげている。

B. 50年間で一番感動したこと  
答. 子供や初孫の誕生とそれぞれの結婚、友に世話で就職など。

C. 50年間で命拾いした事は?  
答. 交通事故や猛吹雪での遭難、大病の手術で助かったことなど。

D. 50年間のギャンブル記録?  
答. 麻雀の役満や優勝、そしてパチンコの出玉の多さを誇る。

E. 50年間に関係した事柄で永久に残したいものはなんですか  
答. 二七会の会合、同期生の友人関係(特に60歳を過ぎてから)

女性が夫との旅行の思い出。

F. 湖陵高校時代で一番記憶に残っている出来事は?  
答. 男女共学の初日、とても新鮮で美しく見えた、と。先生も生徒も急に明るくなって夢の世界に入ったようだった、とも。

生涯の良き多くの友人を得たのを誇りにしている。夏のキャンプや友の顔を思う。

## 良き輩(ともがら)

— 敬称略 —

青山克彦、室田(池田)早苗、五十嵐松夫、大原寛、太田重吉、片島久明、両谷清資、和田信幸、下岡(和田)君代、室伏見順、金子亨、北田実、佐々木孝、阪野哲、澤山右尚、妹尾継男、滝澤泰男、齋藤(箕島)妙子、人見邦子、藤原文夫、堀盟、佐藤(道彦)保子、永田(竹内)セキ子、松田豊満、金井(増永)明子、真崎芳朗、上館正憲、忍(山田)志津子、長島政和、酒田和彦、金子信也、住田敦子、西堀(宮脇)正子、佐藤(野見山)保子、工藤英夫、中島和彦、荒井一、土田幸、星野(伊藤)良、横平弘、辻井泰輔、吉田(辻)かほる、執行一也、柴田恭、向島(近沢)ケイ子、渡邊篤



故郷は遠くにありて・・・二七会  
東京支部の皆さんと遠藤隆吉会長・滝澤泰男さん

飾る  
ず



# 天皇と共に古希を迎え 「幻の釧中35期・釧高女29期」 最下級4ヶ年後、釧中の權威も通じ

竹馬の友、故菅原鐵也

曾川明義

平成2年9月1日、釧路へ出張した折りに釧路港を一周する遊覧船に乗る機会があった。

幣舞橋のたもとの乗り場から、

全長31メートルの高速観光遊覧船は港へ向った。釧路港から知人岬まで進み、西港へ転進して引き返して来る1時間30分のコースだった。私は船上から刻々と変わる釧路の街を眺めた。浦見町の崖が連なり、米町公園が見えた。その左の奥の方に堂々とした高い建物が目に映った。本行寺の本堂だった。その瞬間、50年前の出来事が蘇っ

## 釧路港の遊覧船から 50年前の出来事が蘇る

た。その本堂の二階の窓から、釧路港に停泊していた軍艦を眺めた事。そして、小学校の頃、毎日本堂で遊んだ亡き菅原鐵也の面影が浮かんで来た。遊覧船が右方角へ反転して、本堂が見えなくなる迄、眺め続けた。

私は、東栄小学校に入学した翌

あった。その女性は、私と同じクラスの生徒だと分かったと、寺に遊びに来てほしいと言った。私は迷ったが、何回も念を押すので返事をしてしまった。

その日、帰宅すると母に寺に行く事を告げ、本行寺に行くと言った。菅原鐵也と遊んだ。それは、毎日の日課になり、彼が風邪で小学校を休んだ日も続いた。彼の家族も暖かく迎えてくれ、私は彼の家の一員になった気持ちだった。帰る時には、当時としては珍しい菓子を買

う事も習慣になっていた。時には私の家に遊びに来る事もあったが、ほとんど寺の長い廊下を駆けつっこしたり、広い本堂の畳を跳び回ったりして遊んだ。その後、遊ぶ仲間も増えたが、私との仲は変わらなかった。

ある日、本堂の広い廊下の右端にあるドアが開いているのに気が付いた。普段は鍵が掛かっているのに、鍵を掛けるのを忘れたのか少し開いていたのである。私は誰も側に居ないのを確かめると、ドアに続く長い階段を登った。階段を登り詰めると、小さな部屋が在った。

そこは、本堂の玄関の上だったのである。部屋には大きな

窓があり、釧路港が一望に眺められた。太平洋戦争が始まった頃で、船腹を迷彩色に塗った巡洋艦や駆逐艦の勇姿があった。

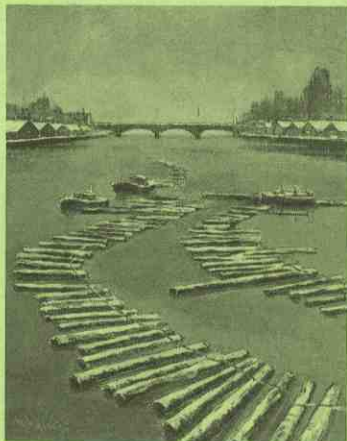
本堂と言え、菅原鐵也と遊んだ居間で、建築中の本堂の写真を見た事があった。丸太を高く組んだ足場の中に、太い柱が何本も並び、大勢の人々が働いている姿が写っていた。当時は機動力など無く、すべて人力が頼りであったが、働いている人々の数が多いのに驚いたものである。

戦争が4年目になった昭和19年の秋に、本堂が陸軍の兵隊の宿舎になった事があった。短期間であったが、広い本堂の畳に隙間が無い位に大勢の兵隊で埋まった。兵隊といっても、ほとんどが年配者で、大勢居るのに本堂の中は静かだった。私は子供心にも、何処から来たのかと疑問を持ったが、尋ねる事など出来ない雰囲気だった。(後略)



東栄小開校百周年記念 15年11月1日

日、悪路の中を苦勞して帰宅を急いでいた。当時、舗装されていない道路は、雨が降れば水溜まりが出来、地盤の弱い場所は泥が浮き上がり、長靴を履いていても子供の歩行は大変だった。私の後ろから、若い女性に手を引かれながら、小学生が追いついて来た。同じクラスの小学生で、その姿は弱々しかったが、その子が菅原鐵也だったのである。



釧路川 - 舟橋正樹

masaki. Funabashi



# 青春譜・湖陵ヶ丘

## 『亡くなった友の想い出』

湖陵4期 笹森道子(旧姓 前畑)

遠い遠い彼方の地へと旅立って行った彼女……初めて彼女に逢ったのは、1年D組・浮田先生のクラスです。彼女は私の隣の席でした。素敵なグリーンとベージュの二色の編込みのセーターを着て、都会的センスいっぱいの女学生でした。私は田舎くさい女学生、私達は対称的に違う二人でしたが、お互いの家が近所だった事もあり、学校の帰りが何時も一緒にしました。

思い出すのは学校帰りの晩秋の光景です。晩秋の日暮れは早く、家路に着く頃、空に星が一つ二つ夕暮の西の空には宵の明星が輝いていました。輝いている星々を見上げながら、彼女と私は、未来を夢見て語り合いました。

『外国へ行こうね』『絶対行こうね』アメリカのデイズニーランド・ナイヤガラの滝・ハリウッド・ニューヨークの摩天楼、色々なことを沢山語り合いました。それは、尽きる事なく続きました。あの頃、海外旅行は夢の中の又夢でした。でも、どんな事でも叶えられ、不可能なんかないと考えて

いたあの頃が、私達の青春だったように思います。学校からの帰りが遅くなったから、両親に叱られるのが分かっていながら、下校時に、よく映画を

笑ったり怒ったりして、夢心地で帰りました。二三日は、頭の中が映画の事でいっぱい。彼女も私も、夢多い少女でした。

私に洋画の面白さと素晴らしさを教えてくれたのが彼女です。今も映画を見に行きます。忙しくて映画を見に行けない時は、レンタルビデオを見ます。勿論アメリカ映画です。今は好きな俳優も変わりました。昔と変わらず沢山の俳



見て帰りました。見る映画は洋画でした。アメリカ映画の大ファンでした。

ゲリークーパー・ジョンウエーン・グレゴリーベック・オードリーヘップバーン・ハンフリボガーD等、他にも沢山の俳優のファンになりました。

映画を見終わった帰りは、映画の主人公に同情し、涙を流したり、

## 下校時に見た洋画 主人公に同情して涙した青春

います。彼女は講習を受ける為に、朝から夕方まで試験場に通い、帰ってからも夜遅くまで勉強をしていました。高校生の頃を思い出すとねと言って二人で笑い合いました。彼女は見事一回で試験に合格して、釧路へ帰って行きました。

彼女の喜んだ顔と、安心した顔を今も思い出

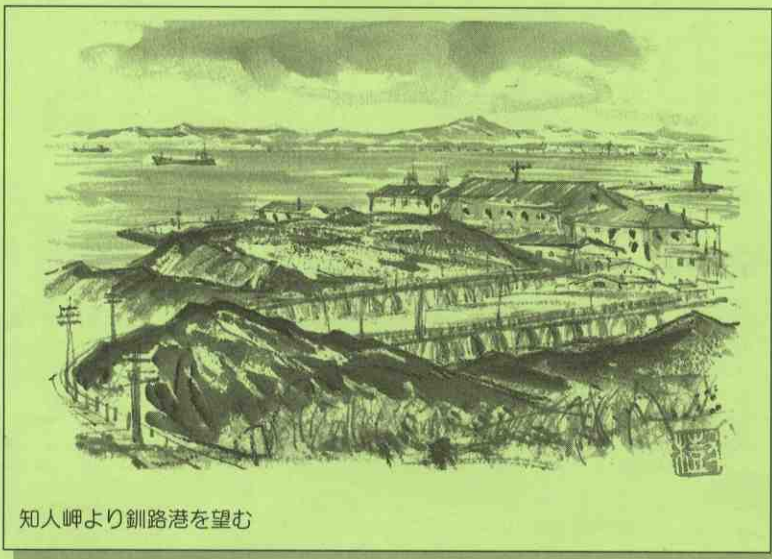
彼女が一人で一生懸命にお店を切り盛りしている姿を見て、私は感動しました。昔の彼女と少しも変わらず、細っそりしてセンスが良く、若々しく美人でした。夢多かつた青春の頃と違い、人生思うようには生きられない事など、グチり合いながら夜更けまで語り合いました。

もう10年以上前の事です。アケ、サヨウナラは言わないからね。  
we will meet in heaven

優のファンになっています。映画やビデオを見終わっても、若かつた青春の頃と違って感激も感動も少なくなつたように思います。年々老化の進行を覚える今日この頃です。

彼女が、車のライセンスを取る為に、我が家に一週間程滞在した事があります。私が真駒内に住んで居た昭和40年頃の事だと思

します。彼女に最後に逢ったのは、彼女のお店でした。こじんまりとした素敵なスナックでした。



知人岬より釧路港を望む



# 釧路教職員湖陵会会長

藤原 富美彦  
(湖陵15期)



①母校及び母校同窓会への支援、  
②会員の研修並びに親睦を活動の大きな柱としている。これは、昭和三十年の本会結成以来、約半世紀に渡って連綿と受け継がれているものであり、今後も会の続く限り変わることなく引き継がれていくものと思われる。

かつては会員の実践発表の場であった研修会も、近年は、講師を湖陵出身者で教員以外の方に限定した講習会となっている。本年度は、十一月二十二日(土)に、釧路信金昭和支店長である佐藤文昭氏(湖陵二十二期)を招聘し、「地元金融機関としての役割」を演題としてお話を伺った。金のことに疎い者にとっては、かなり刺激的であり難解な部分も多かった

が、自らの変革を求められている現職にとつては、学ぶべきものが多い意義深い講演会となった。特に、地域に愛される金融機関としての努力点、行員教育における基本的な考え方等、佐藤氏自らの実践は、管理職のみならず子供に直

## 平成十五年度の活動について

### 学ぶべきもの多き講演 佐藤文昭氏「地元金融機関としての役割」

#### 釧路教職員湖陵会

接携する者にとつても、初心を思い出さるる貴重なお話を聞いたと思ふ。大変お忙しい中、たくさんの資料やレジュメまで準備され、素晴らしい講演をいただいたことに心より感謝をしあげたい。

本年度も、会費の約三割を母校同窓会運営資金として供すること

ができた。また、母校サッカー部の全国大会出場に際し、僅かではあるが支援を行うことができた。会員数の減少に伴い、活動の縮小を余儀なくされるという悩みはあるが、会創立よりこれまで、同窓

## 名簿今昔あれこれ

故岡野政広さん(釧中26期)が、卒業名簿から個人的に発刊された「同窓会名簿」を嚆矢として十年ごとに作成されてきた「湖陵同窓会・会員名簿」が平成6年で止まった。

もつとも十年ごとといえれば16年の今年に発刊されて都合はいいわけではある。これまでトラブルはあまりない。

いまの出版事情からいえば発刊するのは容易である。合同幹事会でも具体的に、

会員数二万七千名、販売予定部数三千八百冊、名簿頒布価格三千九百円

広告百九十七万円、賛助金二百五十万円の予定額まで丁寧に計算して提案されてい

会役員派遣、会報「くまざさ」の編集担務や編集委員の派遣等、運営面でも母校同窓会を支えてきたという自負と誇りをもって、本会を運営していきたいと思つている。(釧路市立桜が丘小学校長)

問題はダイレクトメールが送られてくるなど個人情報が出れること。発刊すれば当然にその心配はある。発刊の反対の凡てはこのこと。

最近の卒業生については、学校で集約してあり面倒さは少ない。「名簿」の必要性は十分にある。同窓生として先輩後輩の事情を知る上で、これほど有難いものはない。

いからだ。これら長短を考え、それぞれの立場からは非が言われるわけである。必要という点では各同期ごとに名簿はできているので間に合う。

ワープロの利用で各期に存在しているから「あえて全期の必要はない」ともいえようが……。同窓会として無い、とはなんとなく細かい気がするのである。まさに嚆矢本を個人的とはいつたが、当然に各期ごとに住所を探させ、纏めることに責任はもたせている。

出版社が作成するときは、往復ハガキで個人宛に送って住所氏名電話番号、勤務先も調べていた。これから作るとすれば、各期ごとの集計をもとに、個人宛の調べも併用することになる。

最近の卒業生については学校に輸入されているフロッピーの利用が考えられる。どこがやるにせよ、個人情報の洩れる心配が一番のガンである。「名簿」の欲しい人と不安に思う人の比率は格段の差がある。

作業の困難さと金のかかることもいい加減のものではない。触れたくない問題ではあるが、一応、開校百周年を前に判断しておかなくてはならない、と思ううかががでしょう。(奥田達也)





## 事務局だより

### 総会の会券は二千円と従来通り 百周年に毎年百万円ずつを

新しい役員会で、同窓会総会の会券は従来と同じ一枚二千円と決めた。これまでも毎年百万円の余剰金を生んできたこの方法である。

湖陵創立百周年は平成25(13)年と九年後にくる。

90周年は後援会が慎重な企画と大胆な行動力で大成功させ五百万円の余剰金さえ生んだ。

しかし同窓会が主催する場合、もう同窓会館寄付の轍は踏みたくない。基金として千万円を達成しておくためには、毎年百万円ずつの積み立てを必要とするのである。

16年度の新人学生からさえ同窓会費三千円を納入してもらう。

会館保全費として毎年三十万円の積み立てもいる。同窓生として



積み立てには従来の総会時の会券収入が一番の財源なのである。広告

収入は五千円の名刺広告として企業主体の掲載を止める。

各人各様の懐具合に応じて二千円でも参加、余計に協力も可といった按配で余剰し積み立てしていく。

湖陵高ならではの苦肉の策ではあるが、止むなしとご了承いただきたい。

練りに練った基本方針である。

諸会合(合同幹事会、編集会議)さえ本人負担三千円、会補助千円と節約している。

#### 総会を8月第二土曜夜に

今年の総会は8月14日(土曜)午後5(6)時?と夜の宴になる。これまでの八月第二日曜はお盆で来賓者を迎える主婦を考慮して設定したのであった。



#### 同期生で連絡を

釧中の先輩方に計報がある。各期とも横の連絡をもつが、残された遺族にまでは、そのあたりで浅深さがある。郵便物を受け取ったものの、その処理に戸迷う。つい「くまざさ編集委員会」にご依頼がある。たまたま同期生に連絡ができて問題解決をみるが、老齢化にともない多くなつたら心配もする。

#### 同期会の積み立金は?

釧中11期生は昭和3年卒業として「昭3会」を作り、規約のもと会費を集めてきた。一昨年にこれまでの幹事を勤めた三國久四さんが亡くなられ、積立金の六万余円を遺族の子息が岩間美智雄さんに移譲した。

もう94歳ともなると、預金はむづかしい。現金は生き残った者へバトンタッチしていくしかない。

元気なうちに亡き友の志を生かした寄付でもと考えているようだ。

#### 故郷で在京釧路会

15年の第40回在京釧路会総会と懇親会が、釧路市の全日空ホテルで開かれた。釧中26期の小柏佐市さんを始め湖陵同窓生も同期会に合わせて来賓する。

永田哲朗さん司会による懐かし

い人々との会合は故郷の新鮮なご馳走で話もはずむ。鈴木英雄さんらとも会えた。(奥田達也)

## 編集後記

昨年の地域の話題は、十勝沖地震に驚かされたほか、道警の報償費疑惑、医局の医師名義貸しなどでエリート男性の権威権力が随分ほころんだ。それに比べ女性は、釧路を舞台とした小説「海霧」へ原田康子の吉川栄治文学賞受賞、北海道で初めての女性知事が誕生、釧根で初めての女性代議士誕生など女性の活躍が目立った。昨年は、樋口一葉(文学)、知里幸恵(アイヌ文化)、金子みすず(詩人)の生誕百周年に当たり、

幸せ薄い彼女らの後押しがあったのか。デフレ時代は男性が言葉に



(写真右より) 増子正樹・渋谷倫之・奥田達也 星 匠・佐藤文昭・田巻恒利

詰まり女性が活躍する時代なのかもしれない。本日、めでたく卒業される男子生徒へ申しあげたい、女子生徒の活躍をゆめゆめ悔るべからずと。

同窓会役員が改選され、また当編集委員に新聞社勤務の星匠(ほし たくみ)氏を迎え同窓会の幅広い充実にご期待あれ。OB諸兄OG諸姉から投稿(写真・文)を歓迎します。なお原稿に削除筆する場合もあります。投稿者は卒業年・勤務先・連絡先を明記願います。宛て先は別記「くまざさ編集委員会」まで。(田巻恒利)

#### 釧路湖陵高校

〒〇八五〇八一四  
釧路市緑ヶ岡三丁目一番  
TEL (〇一五四) 四三三三三

#### くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次(湖陵17期)
- 同窓会幹事長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 奥田達也(湖陵1期)
- 編集副委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 渋谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集顧問 上岡信明(釧中30期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

#### くまざさ編集委員会

〒〇八五〇〇一四  
釧路市末広町二丁目四 栄屋旅館内  
TEL (〇一五四) 二二二〇二四一  
FAX (〇一五四) 二二二〇二四二